

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番 27	福山市立駅家南中学校
最終更新日	2025年(令和7年)4月18日	

I 福山市

ミッション
ビジョン 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、
日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力 めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	思考力・判断力 コミュニケーション能力 自己理解・自信 駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒
<ul style="list-style-type: none"> ○各校の授業を交流し、確かな学力を定着させるための授業改善を工夫して進めてもらいたい。 ○不登校児童・生徒数と学校に来れない現状の把握、取組を今後とも大切に取り組んでほしい。 ○自立した子どもの育成を目指す時、挫折した時どうサポートするかを考えておく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己有用感、自己肯定感が低い児童・生徒において、学ぶ意欲の向上、学力の定着に課題がある。 ○学校や地域の課題を踏まえて、何が必要なのか考えたり、実際に解決するために行動化したりする児童生徒が増えた。 ○小中ともに長欠・不登校の児童・生徒は、一定数いるが、特に中学校において減少してきた。引き続き、個の支援を丁寧に行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教材研究を深め、子ども主体の授業づくりを進めるとともに、学力の定着・向上を図る。 ○保護者、地域と連携したふるさと学習を積み上げる。 ○自ら課題を見つけ、他者と協力して地域貢献できる子どもを育成する。 	

III 自校

ミッション		育成する力 資質・能力																	
未来・地域から預かった生徒が、故郷に愛着と誇りを持ち、自立して社会に貢献できるよう、励ましながら鍛える。		思考力・判断力 コミュニケーション能力 自己理解・自信 駅家に愛着と誇りを持ち 主体的に行動する児童生徒																	
学校教育目標		めざす 子ども像																	
自立して 社会に貢献できる 生徒の育成		<table border="1"> <tr> <td>1年</td> <td>思考力・判断力</td> <td>コミュニケーション能力</td> <td>自己理解・自信</td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>自分の行動や選択を客観的に見て、改善点をみつけることができる。</td> <td>相手の話を聞いたり、自分の考え方を伝えたりするなかで、違いを理解し、協働することができる。</td> <td>学習や部活動を通して、自分の長所や得意を認識し、興味や適性を探究することができる。</td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>異なる意見を尊重しながら、自分の意見を主張することができる。</td> <td>お互いの違いを理解し、共感しながら、人間関係をつくり、協働することができる。</td> <td>他人との関わりを通じて、自分の価値観や信念を明確にし、自己理解を深めることができる。</td> </tr> </table>		1年	思考力・判断力	コミュニケーション能力	自己理解・自信	2年	自分の行動や選択を客観的に見て、改善点をみつけることができる。	相手の話を聞いたり、自分の考え方を伝えたりするなかで、違いを理解し、協働することができる。	学習や部活動を通して、自分の長所や得意を認識し、興味や適性を探究することができる。	3年	異なる意見を尊重しながら、自分の意見を主張することができる。	お互いの違いを理解し、共感しながら、人間関係をつくり、協働することができる。	他人との関わりを通じて、自分の価値観や信念を明確にし、自己理解を深めることができる。				
1年	思考力・判断力	コミュニケーション能力	自己理解・自信																
2年	自分の行動や選択を客観的に見て、改善点をみつけることができる。	相手の話を聞いたり、自分の考え方を伝えたりするなかで、違いを理解し、協働することができる。	学習や部活動を通して、自分の長所や得意を認識し、興味や適性を探究することができる。																
3年	異なる意見を尊重しながら、自分の意見を主張することができる。	お互いの違いを理解し、共感しながら、人間関係をつくり、協働することができる。	他人との関わりを通じて、自分の価値観や信念を明確にし、自己理解を深めることができる。																
現 状		めざす 子ども像																	
○生徒アンケート(肯定的解答率 単位%)		<table border="1"> <tr> <td>授業はよくわかる</td> <td>87</td> <td>学校へ行くのは楽しい</td> <td>87</td> </tr> <tr> <td>授業で考えることは面白いです</td> <td>97</td> <td>みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくろうとしている</td> <td>91</td> </tr> <tr> <td>授業で友達と話し合ったり自分の考えを深めたりしている</td> <td>88</td> <td>今学期図書館を利用した</td> <td>86</td> </tr> </table>		授業はよくわかる	87	学校へ行くのは楽しい	87	授業で考えることは面白いです	97	みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくろうとしている	91	授業で友達と話し合ったり自分の考えを深めたりしている	88	今学期図書館を利用した	86				
授業はよくわかる	87	学校へ行くのは楽しい	87																
授業で考えることは面白いです	97	みんなで協力し合ってよりよい学級や学校をつくろうとしている	91																
授業で友達と話し合ったり自分の考えを深めたりしている	88	今学期図書館を利用した	86																
○令和6年度全国学力・学習状況調査結果 ()は市平均 単位%		研究 内容等																	
<table border="1"> <tr> <td>国語</td> <td>22(R4)</td> <td>23(R5)</td> <td>24(R6)</td> <td>数学</td> <td>22(R4)</td> <td>23(R5)</td> <td>24(R6)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>66(67)</td> <td>64(66)</td> <td>52(55)</td> <td></td> <td>44(45)</td> <td>39(45)</td> <td>48(48)</td> </tr> </table>		国語	22(R4)	23(R5)	24(R6)	数学	22(R4)	23(R5)	24(R6)		66(67)	64(66)	52(55)		44(45)	39(45)	48(48)	<p>①しっかり身に付け（基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る） ②課題意識をもち（授業者も生徒もなぜ学ぶのかを明確にする） ③結論をアウトプット（考えをまとめ、その意図が伝わるように表現する）</p>	
国語	22(R4)	23(R5)	24(R6)	数学	22(R4)	23(R5)	24(R6)												
	66(67)	64(66)	52(55)		44(45)	39(45)	48(48)												
○体力運動能力調査		めざす授業の姿																	
県平均以上の項目数 18項目中 5項目		<ul style="list-style-type: none"> ・生徒会活動やリーダーを中心とした自治的活動に主体的に参加している。 ・目を輝かせて、楽しそうに、教科の内容について考え、発言している。 ・他者との対話を通じて、自分の考えを見直したり、新たにことに気付いたりしている。 ・課題を解決するために、既習事項を関連付けて、考えたり、話し合ったりしている。 ・自分の考えを、言葉や数、図、思考ツール等を用いて、筋道を立てて説明している。 																	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家南中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	加セ 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期中期経営 目標の達成状況	加セ 評価	達成 評価	総合 評価
1	生徒が主体的に学ぶ授業の創造と学力向上	★	継 続	生徒が授業の中で「教科の面白さ」と「できる実感」を感じ、自信と意欲を育む。。	・教科の面白さや魅力を引き出す教材研究を深める。 ・学びの過程で「わかる」「できた」という体験を重ねる。	生徒アンケート「授業はよくわかる」の肯定的評価を前年度以上にする。 (前年度：87%)								
							自己調整学習の充実を図り、学びに向かう力を育む。	中学校区で家庭学習、メディアリテラシーの実態調査、分析を行い、家庭学習の習慣つけやメディアとの適切な関わり方についての指導・啓発活動を開催する。	家庭学習時間の増加、およびメディア時間の適正化が見られる生徒を、当時の調査値と比較して80%以上にする。					
2	生徒が「学校へ行くのが楽しい」と感じることができる学校の創造		継 続	生徒が自ら課題を見出し、仲間と一緒に協力して解決しながら、自己指導力を育む。	特別活動において、生徒が話し合いや合意形成を通して主体的に行事に取り組む機会を充実させ、自己指導力の育成を図る。	生徒アンケート「学校へ行くのは楽しい」の肯定的評価を前年度以上にする。 (前年度：87%) 不登校生徒数を前年度以下にする。(40名)								
3	元気・笑顔で勤務する教職員の育成を通じた学校組織力の向上		継 続	教職員が主体性を發揮し、学年や分掌において、新たに挑戦する学校づくりを推進する。	教職員同士の生徒の姿を中心としたコミュニケーションの活性化を図る各部会、学年会の活性化を図る。	100NEN 教育アンケート「仕事にやりがいを感じている」の“あてはまる”を昨年度以上にする。 (前年度：60%)								

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかつた。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多くつた。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかつた。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかつた。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかつた。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかつた。